

# 安全で安心して暮らせる 「さがみはら」の実現に 向けて



相模原市消防局長 佐藤 政美

相模原市は、神奈川県の中北部に位置し、北は東京都、西は山梨県と接しており、戦後生まれの都市では初めての政令指定都市です。県内最高峰である蛭ヶ岳や県民の水がめである相模湖・津久井湖・宮ヶ瀬湖などの豊かな自然と都市機能を併せ持ち、「潤水都市さがみはら」がキャッチフレーズとなっています。

東京都心からのアクセスも良く、近年では、圏央道（首都圏中央連絡自動車道）の開通により、中部圏や北関東、東北等へのアクセスが飛躍的に向上したところであり、2027年には超高速で品川と名古屋を結ぶ我が国の新たな大動脈を形成するリニア中央新幹線神奈川県駅が橋本駅周辺に設置される予定です。

また、相模原駅周辺においては、在日米陸軍相模総合補給廠の一部返還地を活用し、業務拠点のほかショッピングやスポーツ・アート等を楽しむことのできる空間の形成や小田急多摩線の延伸に向けた取組を推進しています。この様に本市では50年、100年先を見据えた複数のプロジェクトを抱えながら、首都圏南西部をリードする広域交流拠点都市として「人や企業に選ばれる都市づくり」を進めているところです。

さて、相模原市消防局は、「72万人市民が安全で安心して暮らせる都市さがみはら」の実現に向けて本年4月1日現在、1局5課4消防署14分署2出張所1派出所、職員758名、消防団は1団6方面隊34分団107部1,516名が一体となって、消防行政を推進しています。

本年度は、丹沢や道志川等の豊かな自然に囲まれた青根地域に、緑区役所出張所、公民館との複合施設として新たに救急車を配備した分署を整備し、山林火災を始め山岳救助や水難救助など、地域特有の災害に対応してまいります。

さらに、学生等に地域防災への関心を高めてもらえるよう「学生消防団活動認証制度」を創設します。若者が消防団の一員として地域に密着した防災の担い手になることを大いに期待しているところでございます。

近年の災害発生状況を顧みますと、自然災害が国内外で多発しており、市民生活に大きな影響を及ぼしています。我が国におきましても、昨年は地震、台風などにより、各地で甚大な被害が発生いたしました。

また、首都直下地震や南海トラフ巨大地震等の発生による大規模地震災害が危惧されるなど、広域応援体制である緊急消防援助隊の充実や、国際消防援助隊としての活動など、消防力の強化がますます重要となっております。

こうした中、9月3日には、市民や防災関係機関との連携強化や広域防災体制の充実を図るため、相模原市総合防災訓練を実施します。

近年、職員の大量退職に伴い、大量採用が続く中、経験の浅い若手職員の割合が急増するなど、職員構成に変化が生じており、消防活動の知識や技術の習得と継承を確実に進めることが肝要であると考えております。この様な認識の基、引き続き人材の育成に努めながら、市民一人ひとりの生命・財産を守り「安全で安心して暮らせるまちの実現」に向け、職員一丸となって業務に取り組んでまいります。